



市長に寄付金の目録を手渡す田熊氏（中）と篠山氏（左）

伊藤園と東洋製罐が市に寄付

■「環境賞」受賞企業による寄付金贈呈式

8月24日、市役所棟原庁舎で株式会社伊藤園と東洋製罐株式会社から市へ100万円が寄付されました。

寄付金は、共同開発した「低環境負荷の緑茶飲料充填システム」が、第42回「環境賞」で優秀賞を受賞した賞金。

市内に生産拠点のある両社が、社会貢献の一環として市への寄付を決めました。

伊藤園の田熊元彦生産本部副本部長は、「ぜひ有効活用し役立ててください」と話しました。

宝くじ助成でイベントの備品を整備

■自治総合センターコミュニティ助成事業

相良区では8月、宝くじの社会貢献広報事業として、一般財団法人自治総合センターが行う「コミュニティ助成事業」を活用して、イベントや祭典で使用する備品を整備しました。

整備した備品は、ノートパソコンや放送設備、無線機、テントなどです。

この事業により、子どもからお年寄りまで楽しむことができるイベントや祭典が快適に開催、また運営でき、地域に密着したコミュニティ活動の活性化が期待されます。



整備されたノートパソコンや放送設備、テントなどの備品

紙芝居で学ぶ津波への備え

■紙芝居「福島県浪江町請戸小学校物語」

牧之原そいそわの会は、紙芝居「福島県浪江町請戸小学校物語～大平山をこえて～」を8月19日、20日と2日間にかけて、市内4カ所で上演。市内小中学生約300人が、津波への備えを学びました。

紙芝居は東日本大震災直後、迫りくる津波を背に、児童と教職員が協力し合いながら、全員無事に命を守ることができたという実話が題材です。

また、紙芝居を制作したボランティア団体「団塊のノーブレスオブリージュ」（東京）から、市に「請戸小学校物語」絵本12冊の寄贈がありました。



市史料館で紙芝居を上演する牧之原そいそわの会のメンバー



市長に表彰状を手渡す川上氏（県くらし交通安全課長）

交通死亡事故ゼロ「連続300日」

■交通安全優良市町表彰の表彰状伝達式

市は、交通死亡事故ゼロの連続300日を達成。8月20日、県交通安全対策協議会から「交通安全優良市町」として表彰されました。

市役所棟原庁舎で行われた表彰式では、県くらし交通安全課の川上幸文課長から、西原市長に表彰状が手渡されました。

市は過去に、平成22年から24年にかけて交通死亡事故ゼロ連続431日も達成しています。

西原市長は「記録を更新できるように、さらに努力していきたい」と話しました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎0052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

ズームイン！
カシャ！！



「産地賞」初受賞を喜び万歳をする市職員

念願かなった初受賞に歓喜

■全国茶品評会深蒸し煎茶の部で産地賞受賞

お茶の出来栄を競う第69回全国茶品評会が、株式会社静岡茶市場で開催されました。深蒸し煎茶の部で、牧之原市が合併後初めて、念願の「産地賞」を受賞しました。

営農指導に取り組むJAハイナンの藤田健一郎営農企画課長代理は「ずっと挑戦してきた、ようやく受賞できた。生産者の皆さんの努力が報われ、すごくうれしい」と話してくれました。

また、西原市長は「非常に名誉なこと、市制10周年に花を添えるうれしい出来事です。受賞を契機とし、茶業をいっそう盛り上げていきたい」と話し、受賞を喜びました。

英語だけで過ごす一日

■イングリッシュキャンプ

英語だけで一日を過ごす体験「イングリッシュキャンプ」が、8月7日「い～ら」、10日「さざんか」で行われ、市内小学生約200人が参加しました。

このキャンプは、英語コミュニケーション能力を高め、国際社会に対応できる人を育てることを目的に、今回初めて開催されました。

児童らは、パスポートを片手に米国やフランス、キューバなどをまわる仮想ツアーに参加。外国人や英会話ボランティアとの文化交流やクイズなどをとおして、英語を楽しく学びました。



実際にキューバの民族楽器に触れる児童



岸本氏の標本を使った説明を真剣に聞く児童

世界の昆虫がいっぱい

■ふじのくに地球環境史ミュージアム

ふじのくに地球環境史移動ミュージアムが、史料館で、7月29日から8月9日まで開催されました。

8月2日には、県立博物館の昆虫博士岸本年郎氏により、「身近な足元の虫たち」をテーマに特別講座が行われました。

参加した児童らは、岸本氏のスライドや会場に展示されているクワガタやセミ、トンボ、チョウなどの標本を使った、身近に生息する昆虫の生態などについて真剣に聞いていました。